

# HUG

(避難所運営ゲーム)

## 横浜市

### 福祉避難所版

## 説明書

抜粋

# もくじ

## 1 はじめに

## 2 ゲームに必要な物品と準備

## 3 ゲームの流れ

## 4 設定条件

## 5 振り返りのポイント

## 6 参考資料

- ・福祉避難所図面（入所施設／通所施設）

- ・備蓄物資一覧（横浜市の要綱から抜粋）

- ・関係様式

施設状況報告書【様式第1号】

施設状況確認票1（外観）／2（内部）

福祉避難所開設要請書【様式第2号】

福祉避難所・緊急入所受入要請書【様式第3号】

避難者カード【様式第4号】

状況報告書（日報）【様式第5号】

物資受入れ・払出し票【様式第6号】

必要な応援・物資等報告書【様式第7号】

## 7 HUG横浜市福祉避難所版制作プロジェクト 参加施設等一覧

# 1 はじめに

平成23年（2011年）の東日本大震災、平成28年（2016年）の熊本地震など過去の大規模災害において、福祉避難所の開設・運営に関する課題が浮き彫りになっています。横浜市でも、平成28年度（2016年度）から、真に福祉避難所への避難を必要とする要援護者の受入れが円滑に進むための対策を議論してきており、その内容は横浜市防災計画（震災対策編）の改定（平成30年4月）等に反映されています。

こうした流れの中で、平成29年度第2回栄区福祉避難所連絡会において、発災時に福祉避難所を運営する社会福祉施設から「円滑な開設・運営に備えるための訓練を充実させるためにも、HUG<sup>\*1</sup>（避難所運営ゲーム）の福祉避難所版を作成してほしい」という声が挙がりました。

この意見を受け、栄区では、HUGや、HUGをもとに開発された「福祉避難所運営シミュレーションゲーム」<sup>\*2</sup>をベースとして、区内社会福祉施設や有識者の方とのプロジェクト形式で「HUG横浜市福祉避難所版」を制作しました。

本品は、横浜市が想定している福祉避難所の開設・運営の流れに沿っており、且つ、想定には無いが起こりうる出来事等も含めた内容にしています。日常業務で多忙な施設職員の方々も可能な限り多くが手軽に参加できるものにしていきますので、発災時に起こりうる出来事を事前に検討しておくためにも、各施設で活用いただけると幸いです。

制作：横浜市栄区役所

※1…静岡県庁が開発した、避難所運営時に発生する様々な出来事への対応を複数人で意見交換しながら検討することで避難所運営を疑似体験するカードゲーム

※2…国際医療福祉大学・町田和氏・山下留理子氏らによる福祉避難所運営シミュレーションゲーム作成研究会が開発した、福祉避難所を想定した運営シミュレーションゲーム。HUGを参考に、主な避難者を要援護者にして改変したもの。

## 2 ゲームに必要な物品と準備

### (1) 会議机と椅子

1 グループ5人～7人程度を推奨します（読み上げ係を含む）。

### (2) ホワイトボード等

情報を貼り出す掲示板として使用します。

### (3) カード

避難者カードとイベントカードをまとめ、左肩の番号で順に並べます。

一部、同じ数字で「K」「S」のアルファベットが書かれたものがあります。これは高齢者施設向けのカード「K」と障害者施設向けのカード「S」です。これらは、自分の施設の種別に合わせて使い分けます。

カードのサイズは、4.5cm×6.0cmです。これは、想定されている要援護者の避難スペース（3㎡=1.5m×2.0m）に合わせたものです。

なお、避難者の姓は、ゲームをしながら様々な災害に思いを寄せてほしいという考えから、「気象庁が天気予報等で用いる予報用語（2018年8月現在）」（気象庁ホームページ）から抜粋した用語を用いています。

### (4) 図面のコピー

自分の施設の図面をカードの縮尺（1.0m=3.0cm）に合わせて拡大コピーすることが、最適な訓練になるでしょう。

なお、参考として、入所施設・通所施設それぞれ、縮尺が入った例図（A3判に拡大して使用）及び避難者受入れが想定される部屋（A4判）を掲載していますので、必要に応じて使用してください。

### (5) セロハンテープ、筆記用具、メモ用紙、附せん

あると便利です。

### (6) 各種様式

発災時に使用する所定の様式をこの冊子にも掲載しています。必要に応じてコピーしておきましょう（無くてもゲームはできます）。

### 3 ゲームの流れ

(1) グループをつくる。

1 グループ5人～7人程度を推奨します。多職種を組み合わせるとよいでしょう。複数グループで体験するときは、全体の進行係を用意します。

(2) 読み上げ係を決める。

このゲームはカードを読み上げて進めていくので、グループに1人、読み上げに専念する「読み上げ係」が必要です。

なお、読み上げ係はこのゲームの経験者が好ましいですが、未経験者でも可能です。

(3) ゲーム環境をつくる。

机の上に施設図面を広げ、メモ用紙や筆記用具、ホワイトボード等を使いやすい位置に配置します。連番に並べたカードは、山にして置いておきます。

(4) 自己紹介をする。

このゲームはプレイヤー（読み上げ係を除く）全員が自分の考えを発言し、意見交換しながら進めていきます。そのため、まず職種や専門分野などをグループ内で共有しましょう。

(5) ゲームの設定条件を全体で共有する。

全体の進行係が、発災の状況や避難当日の条件（震度、気象条件、季節、時間帯、被災状況等）を全グループに説明します。

なお、設定は自由につくることが可能ですが、難易度別の参考設定を用意してあります。

(6) アイスブレイクを行う。

全体の進行係が、この冊子にある難易度別の参考設定を全グループに説明し、設定ごとに、「この設定条件のときに受け入れをするか、しないか」をグループごとに意見交換します。

このとき、ひとりずつ順番に、なぜそう判断したかを発言します。判断に絶対的な正解はありません。各自の考えを尊重して聴きましょう。

(7) ゲームを開始する。

まず全員立ち上がり、読み上げ係はカードを束にして手に持ちます。

全員の準備ができたなら、カードの1番を読み上げて机の上に出し、読み上げ係以外のプレイヤー全員で対応を考えます。

### (7) ゲームを進める。

以後、次々とカードを読み上げ、机の上に出します。プレーヤー全員（読み上げ係を除く）で避難者の受入可否や避難場所、イベントへの対応方法を話し合いながら、随時、図面上に配置していきます。メモ用紙、附せん、ホワイトボードも適宜使用します。

なお、実践的な訓練にするためには、プレーヤーが前のカードを配置し終える前のタイミングを見計らって次のカードを読み上げるとよいでしょう。なぜなら、実際の災害では、避難者や変わりゆく状況は前の対応が終わるのをゆっくり待ってはくれないからです。

- ・【避難者】と書かれたイベントカードは、その次に続く避難者カードを受け入れる（または受け入れない）判断をするカードになります。避難者カードとセットで読み上げるとよいでしょう。
- ・避難者カードは、世帯番号を見て、1世帯分まとめて読み上げます。
- ・どのカードも、必ず、読み上げてから机の上に出します。読み終える前に机の上に出すと、直前のカードを配置している最中のプレーヤーや遠い位置にいるプレーヤーが情報を共有する前に他のプレーヤーが対応を始めてしまい、当事者意識に差が出る可能性があります。

### (8) ゲームを終了する。

すべてのカードを読み上げたらゲーム終了です。

また、あらかじめプレー時間を決めておくこともよいでしょう。その場合は、終了予定時刻が近づいたら読み上げ係を2人に増やしてスピードアップしてもかまいません。

### (9) 意見交換をします。

イベントカードや避難者カードの対応に、絶対的な正解はありません。それぞれの対応について、何を悩んだか、どう考えたか、ということの共有が重要です。

そこで、終了後30分程度、グループ全員での意見交換を行きましょう。また、他のグループの状況を見たり、他のグループの発表を聴いたりして、自分のグループと違う意見・判断も把握することで視野を広げましょう。

なお、この冊子には振り返りのポイントを例示しています。意見交換の際に参考にしてもよいでしょう。

## 4 設定条件

まずは、「初級編」で体験してみましょう。メンバーを変えて同じ条件で繰り返し実施することで、違った視点や考え方に気づくことができます。また、「中級編」「上級編」は悪条件下での受入れのため、検討すべき事柄が複雑になっていきます。「初級編」→「中級編」→「上級編」と順に取り組むことによって、考えを深めていくことを推奨します。

### (1) 初級編

5月中旬、午前11時、南海トラフ沿いを震源とするマグニチュード8.0の地震が発生。栄区内では最大震度6弱を観測。

市内では、死傷者も発生している模様。市内数か所で停電・断水が発生し、家屋も全壊・半壊など被害あり。公共交通は全面停止。

発災4日目。当施設では電気・ガスには被害が無く、水道は朝10時頃に復旧。発災時に施設内にいた通所利用者等はすべて帰宅済。穏やかな天候の午後1時、スタッフもおおむね揃ったところで、区役所から福祉避難所の開設を要請するFAXが届きました。

### (2) 中級編

10月中旬、午後4時、マグニチュード7.3の首都直下地震が発生。市内東部では震度6強、栄区では震度5強を観測。

市内では、死傷者が複数発生、家屋も被害多数。市内複数の地域で停電・断水・ガス遮断が発生し、当施設では水道とガスが停止。公共交通は全面停止し、幹線道路にも被害発生。一部の地区では崖崩れによる通行止めが発生。

発災5日目。発災時に施設内にいた通所利用者等はすべて帰宅済。肌寒さを感じるようになってきた曇り空の午後5時。1時間ほど前に水道が復旧し、スタッフも通常の7割が出勤できた頃、区役所から福祉避難所の開設を要請するFAXが届きました。

### (3) 上級編

2月中旬、午後6時、相模トラフ沿いを震源とするマグニチュード8.1の地震が発生し、市内各所で震度7強を観測。

市内では、死傷者多数発生、建物も多数が倒壊・延焼、広域で停電・断水・ガス遮断も発生。当施設も建物の被害はかろうじて軽微で済んだが、電気・水道・ガスは止まり、電話も不通。非常用電源で最低限必要な電力を確保している状況。幹線道路等交通網も被害が大きく、崖崩れ等が多数発生。

発災2日後の午後5時、北風が吹き小雨が降る中で通常の4割程度のスタッフが集まった頃、区役所から、「被害状況は認識したが、避難者が甚大であり、可能な限り要援護者を受け入れてほしい」と福祉避難所開設要請が災害時優先携帯電話での連絡にて入りました。

## 5 振り返りのポイント

- (1) 福祉避難所の対象者ではない避難者にどう対応したか。
  - ・ただ断るだけではなく、説明・情報提供・その他の配慮はできたか
- (2) 入所者・通所利用者等施設利用者の安全確保はできているか  
※入所施設及び上級編の場合
- (3) 避難者の適切な空間配置はできているか
  - ・区割りと通路の確保は適切だったか  
(車いすが通れるスペースが望ましい)
  - ・一人あたりの広さは適切か  
(市の基準は3㎡)
  - ・足腰の弱い人や視覚障害者等を壁際・入口付近へ配置できたか
  - ・出入り口の安全確保はできたか  
(くつの整理整頓など)
  - ・プライバシーの確保の工夫はできたか
  - ・特別な配慮が必要な人の対応をどう行ったか  
(個室の確保、相部屋への配置など)
- (4) 医療依存度やリスクが高い避難者（妊婦等）への配慮はできたか
- (5) 普段かかわりのない避難者への対応はできたか  
※情報が少なく、情報を得る手段も限られている中での対応
- (6) 衛生・感染症対策はできているか
  - ・外部からの車いすの入館・入室について工夫ができるか
  - ・感染が疑われる避難者及び他の避難者への配慮ができるか
  - ・水が十分使用できない場合のおむつ交換をどうするか
- (7) 備蓄品の確認・調達は十分か
- (8) 避難者への情報や注意事項の提供・伝達方法は十分だったか
- (9) スタッフの確保と安全配慮はできているか
  - ・施設スタッフの安全と休養の確保への配慮ができるか
  - ・マンパワーの早期見通しと応援要請を検討できるか
- (10) BCP（事業継続計画）の視点を持っているか
  - ・通所などの事業継続・再開の条件を検討できているか

など



## 7 HUG 横浜市福祉避難所版(仮称)制作プロジェクト 参加施設等一覧

施設名称	施設種別	設置主体・運営主体
小菅ヶ谷地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	(福) 横浜市福祉サービス協会
野七里地域ケアプラザ	地域ケアプラザ	(福) 伸こう福祉会
上郷苑	特別養護老人ホーム	(福) 横浜長寿会
ライフコートさかえ	特別養護老人ホーム	(福) 豊笑会
リハビリポート横浜	介護老人保健施設	(医) 協友会
地域活動ホーム 径	障害者地域活動ホーム	(福) 訪問の家
栄区生活支援センター	精神障害者生活支援センター	(福) 恵友会
リエゾン笠間	障害者施設(身障)	(福) 同愛会

### 【有識者】

国際医療福祉大学大学院	准教授 山下 留理子
-------------	------------

### 【事務局】

横浜市栄区役所	福祉保健センター 高齢・障害支援課
---------	-------------------

HUG（避難所運営ゲーム）横浜市福祉避難所版  
（静岡県「避難所HUG」使用許諾番号94号）

発行日：令和元年9月

制作協力：HUG横浜市福祉避難所版(仮称)制作プロジェクト

発行元：横浜市栄区役所高齢・障害支援課

〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19